

## 保育者養成校における学生のピアノ技能に関する現状と考察 — 学生のグレード取得状況と意識調査の結果をもとに —

The present conditions and consideration about the piano skill of students  
in childcare training school  
— Based on the status of student acquisition of grades and the results  
of the awareness survey —

井 上 朋 子\*  
(令和4年7月25日受理)

### 要約

本稿は、現在、本学で実施しているピアノグレード制の現状と課題を明らかにするものである。まず、2021（令和3）年度入学生対象のピアノに関する調査より学生のピアノ環境やピアノのレベルを整理した。次いで、「器楽A」の半期間（4月～7月）におけるグレード取得状況を考察するとともに、I期開始時と修了時に実施した学生の意識調査（自信度）を比較した。その結果、グレード制により一定の成果が現れていることと、ピアノの学習歴によって自信度の伸びに違いが見られることが明らかとなった。

キーワード：保育者養成校、ピアノ教育、グレード制

keywords：Childcare training school, Piano education, Grade system

### 1. はじめに

保育者を目指すにあたり、ピアノに対して不安をもっている高校生は少なくない。「ピアノ初心者でも授業についていけるか」「保育者になるためにはどの程度弾けたらよいのか」等という質問を多く受ける。保育現場において、ピアノを用いなくても様々な活動を展開することができるが、もちろんピアノを用いることで活動の幅が広がり、何より保育者自身の保育に対する自信にもつながる。また、保育者のより豊かな音楽表現は、子どもたちの感性や表現力にも影響を与える。よって、保育者にとって、ピアノの基礎的スキルや表現力は重要である。

本学ではこれまで、「器楽A」「器楽B」「音楽教育C」「音楽教育D」の中で、ピアノ個人レッスンの指導を行ってきた。このうち、「器楽A」「器楽B」は、ピアノと弾き歌いの基礎的スキルの修得を中心とした内容になっており、2014（平成26）年度よりピアノグレード制を導入することによ

て、個々の学生がレベルに応じた目標をもって取り組めるようになった<sup>1</sup>。また「音楽教育C」「音楽教育D」のピアノの個人レッスンでは、実習や就職試験など、個々の目的に応じながらもより実践的なスキルを修得できる授業内容になっている。2年課程の学生は4期にわたって、また3年課程の学生は4期の授業に加えて正課外における2期間の「ピアノ特別レッスン」を実施し、2年課程及び3年課程ともに、在学中の全学期、ピアノの個人レッスンが受けられるよう、ピアノ教育を充実させてきた。今年でグレード制を開始してから9年目になるが、今一度現在のピアノグレード制の現状を確認し、今後の課題を明らかにしておきたい。

本稿では、調査対象を2年課程の「器楽A」に限定し、対象者の入学時におけるピアノ環境とピアノのレベルを整理する。次いで、「器楽A」の半期間（4月～7月）でのグレード取得状況を整理・考察するとともに、I期開始時と修了時に実施し

(\*いのうえともこ 保育科教授 音楽教育・ピアノ)

表1 2年課程の音楽関係科目

1年Ⅰ期	1年Ⅱ期	2年Ⅰ期	2年Ⅱ期
器楽A※	器楽B※	—	—
音楽教育A	音楽教育B	音楽教育C※	音楽教育D※

表2 3年課程の音楽関係科目

1年Ⅰ期	1年Ⅱ期	2年Ⅰ期	2年Ⅱ期	3年Ⅰ期	3年Ⅱ期
(正課外) ピアノ特別レッスン※	器楽A※	器楽B※	(正課外) ピアノ特別レッスン※	—	—
音楽教育A	—	—	音楽教育B	音楽教育C※	音楽教育D※

※ピアノ個人レッスンを含む授業

(補足) 幼稚園教諭二種免許必修科目：器楽A/器楽B/音楽教育A/音楽教育B

保育士資格必修科目：器楽A/音楽教育A

保育士資格選択必修科目：器楽B/音楽教育B/音楽教育C/音楽教育D

た学生の意識調査(自信度)を比較し、本学のピアノ教育の現状と課題を明らかにすることとする。

## 2. 入学時の学生のピアノ環境と習熟度について

### (1) アンケート内容について

ここではまず、入学時に実施したピアノに関するアンケート調査の中から、学生の自宅のピアノ環境と入学時の習熟度に関する回答について考察する。2021(令和3)年度Ⅰ期は、コロナ感染拡大予防のため、本学の授業は対面授業とオンライン授業の両形式で開講された。2年課程の1年生は、対面授業(週2日)とオンライン授業(週3日)で実施され、「器楽A」はオンライン授業日の開講となったため、希望者のみ対面でのピアノ指導を実施することになった。

調査対象：H短期大学部2年課程入学者66名

調査時期：2021年4月7日

調査内容：「質問紙調査」

- ①自宅のピアノ環境を教えてください。
- ②今のピアノのレベルを教えてください。自分のレベルに近いものに○を付けて下さい。  
 (「ソナチネ・アルバム」以上/「バイエル」終盤程度/「バイエル」中盤程度/ピアノ経験はあるが、ほとんど初心者レベル/全くピアノを弾いたことがない/分からない)

### (2) 結果

#### 【自宅におけるピアノ環境】

自宅のピアノ環境については、図1のように87%の学生が、ピアノ、電子ピアノやキーボード等の鍵盤楽器を所有していることが分かった。想像していたよりも、自宅で練習できる環境が整っていることが分かった。これは、入学予定者には入学前課題として、ピアノグレード一覧表(表3~5)を配布し、練習に取り組んでおくように促していることも影響していると思われる。大学内には個別ピアノ練習室とML教室があり、授業の空き時間や放課後に自由に利用できる環境を整えているが、通学日以外や実習中等にも練習を継続するには、自宅に鍵盤楽器があるに越したことはない。

#### 【入学時のピアノの技能レベル】

回答は自己判断によるものであるが、図2が入学時のピアノのレベルに対する回答結果である。「バイエル」中盤以上のレベル(「ソナチネ・アルバム」以上・「バイエル」終盤程度・「バイエル」中盤程度)と回答した者が45%(30名)見られた。「分からない」の回答者10%(7名)のうち、「小学校6年間、ピアノを習っていたが、バイエルやソナチネを使用していなかったため分からない」(1名)、「以前、ショパンやラフマニノフを弾いていた」(1名)と記しており、また「忘れまして」

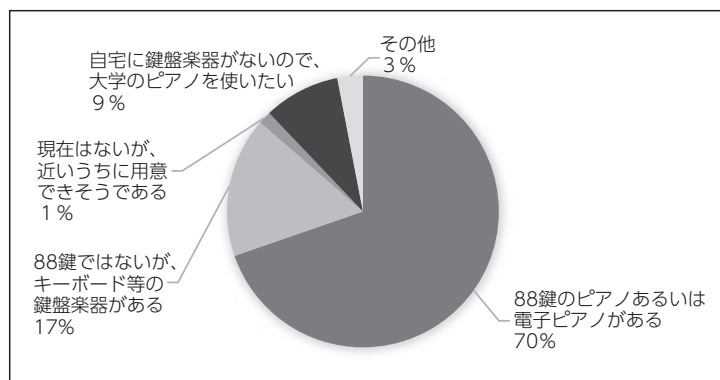


図1 自宅におけるピアノ環境

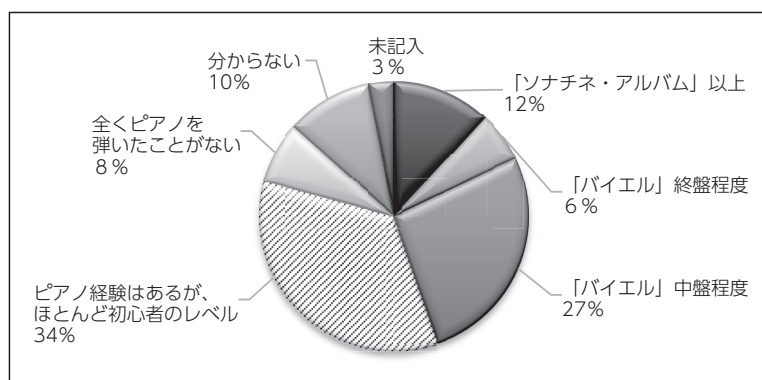


図2 入学時のピアノのレベル

(3名)は未経験者・初心者ではないと自覚していると捉えると、全体の半数以上が、「バイエル」中盤以上のレベルをもって入学してきていることが分かる。

これは、近年高等学校においても保育系の進学希望者対象の選択授業科目として、ピアノの内容を取り入れている学校が増えてきていること、オープンキャンパスや入学前教育の課題においてもピアノの練習を促してきたこと、また2019（令和元）年度より入試区分に「ピアノ型実技入試」を導入したことも影響し、全体的に入学者のピアノ学習に対する意識は高まってきていると捉えることができる。

一方で、「全くピアノを弾いたことがない」が8%、「ピアノ経験はあるが、ほとんど初心者のレベル」が34%であり、未経験あるいは初心者と自覚

している入学者も4割以上見られることが読み取れる。

### 3. 2021年度I期のピアノ取得グレード状況と意識調査結果

#### (1) 本学のピアノグレード制について

現在、本学では、ピアノレベル別の3つのコース（表3～5）を設定し、学生個々のレベルに応じたピアノ学修を進められるようにしている。2019（令和元）年度までは、授業外時間にグレード試験日を設定し、グレードの合否を判定していたが、コロナ感染拡大以降、グレード試験日は設けずに、このグレード表に基づいて個人レッスンを進め、レッスン内で各担当者が各曲の合否を判定している。器楽Aの単位認定条件は、Sコースは⑤1、Aコースは④1、Bコースでは③2を合

表3 ピアノグレード【S（スーパー）コース】一覧表

グレード	ピアノ	弾き歌い・律動
① *器楽Aクリアー必須	「バイエル」No.60~No.79 試験当日4曲指定	(律動) 器楽B修了時まで に、「歩く」 「スキップ」 「走る」 の律動の3通りを 習得すること。 器楽B修了時まで に必修曲20 曲すべてを合格 すること。 必修曲すべてを 合格した後は、 自由曲で受験す ること。
②	「バイエル」No.80~No.98 試験当日4曲指定	
③	① 「バイエル」No.99~No.105 試験当日4曲指定 ② 初見視唱1曲 (子どもの歌の歌のみ)	
④ *器楽Bクリアー必須	① 「ソナチネアルバム1」より任意の2つの楽章 *2つの楽章は同一曲とする ② 初見演奏1曲 (子どもの歌の伴奏のみ)	
⑤	① 「ソナチネアルバム1」より任意の2つの楽章 *2つの楽章は同一曲とする ② 初見弾き歌い1曲 (子どもの歌の弾き歌い)	
⑥	① 自由曲 ② 初見視唱1曲 (コールユーブンゲン) と初見弾き歌い1曲 (子どもの歌の弾き歌い)	
⑦	① 自由曲 ② 主要三和音の伴奏付け1曲 (ハ長調、ト長調、ヘ長調のいずれか)	
⑧	① 自由曲 ② 主要三和音の伴奏付けによる弾き歌い1曲 (ハ長調、ト長調、ヘ長調のいずれか)	
⑨	① 自由曲 ② 音名唱と階名唱1曲 (子どもの歌より)	
⑩	① 自由曲 ② 移調奏1曲 (ハ長調から長2度上へ) *子どもの歌より	
⑪	① 自由曲 ② 移調奏1曲 (ニ長調から長2度下へ) *子どもの歌より	
⑫	① 自由曲 ② 移調奏1曲 (ハ長調から同主調へ) と演奏曲に関する口述試験	

表4 ピアノグレード【A（アドバンス）コース】一覧表

グレード	ピアノ	弾き歌い・律動
① *器楽Aクリアー必須	「バイエル」No.60~No.69 試験当日3曲指定	(律動) 器楽B修了時まで に、「歩く」 「スキップ」 「走る」 の律動の3通りを 習得すること。 器楽B修了時まで に必修曲 20曲すべて を合格する こと。 必修曲すべてを 合格した後は、 自由曲で受験す ること。
②	「バイエル」ト調長音階~「バイエル」No.79 試験当日3曲指定	
③	「バイエル」No.80~No.89 試験当日3曲指定と 「ブルグミュラー25の練習曲」No.1	
④	「バイエル」No.90~No.98 試験当日3曲指定と 「ブルグミュラー25の練習曲」No.3かNo.5	
⑤ *器楽Bクリアー必須	「バイエル」No.99~No.105試験 当日3曲指定と 「ブルグミュラー25の練習曲」No.4かNo.16	
⑥A (例ばして6B受験可)	「ソナチネアルバム1」4-1 (No.4の1楽章)・ 4-2・5-1・6-1・8-1・8-3・9-3・17-1 の中から任意の1曲	
⑥B	「ソナチネアルバム1」5-8 (No.5の3楽章)・ 6-2・9-1・10-1・11-3・12-1・14-3・15-1・15-2・ 17-2 の中から任意の1曲	
⑦	自由曲	
⑧	自由曲	
⑨	自由曲	
⑩	自由曲	
⑪	自由曲	
⑫	自由曲	

表5 ピアノグレード【B（ベーシック）コース】一覧表

グレード	ピアノ	弾き歌い・律動
①	「バイエル」No.45~No.59 (No.53とNo.54は除く)の中から任意の2曲	(律動) 器楽B修了時まで に、「歩く」 「スキップ」 「走る」 の律動の3通りを 習得すること。 器楽B修了時まで に必修曲 20曲すべて を合格する こと。 必修曲すべてを 合格した後は、 自由曲で受験す ること。
② *器楽Aクリアー必須	「バイエル」No.60・No.61・No.62・No.65・ No.66・No.67 の中から任意の3曲	
③	「バイエル」No.72・No.73・No.75・No.76・ No.77・No.78・No.79・No.83・No.84・No.85 の中から任意の3曲	
④	「バイエル」No.88・No.89・No.90・No.91・ No.93・No.94・No.95・No.96・No.97・No.98 の中から任意の2曲と 「ブルグミュラー25の練習曲」No.1かNo.3か No.5	
⑤ 受験必須グレード *器楽Bクリアー必須	「バイエル」No.80・No.81・No.82・No.89・ No.100・No.102・No.104・No.105 の中から任意の2曲と 「ブルグミュラー25の練習曲」No.4かNo.16	
⑥A (例ばして6B受験可)	「ブルグミュラー25の練習曲」No.2・No.6・ No.7・No.8・No.10・No.11・No.17・No.18 の中から任意の1曲	
⑥B	「ブルグミュラー25の練習曲」No.9・No.12・ No.14・No.15・No.20・No.21・No.22・No.23・ No.24・No.25 の中から任意の1曲	
⑦A (例ばして7B受験可)	「ソナチネアルバム1」4-1 (No.4の1楽章)・ 4-2・5-1・6-1・8-1・8-3・9-3・17-1 の中から任意の1曲	
⑦B	「ソナチネアルバム1」5-8 (No.5の3楽章)・ 6-2・9-1・10-1・11-3・12-1・14-3・15-1・15-2・ 17-2 の中から任意の1曲	
⑧	自由曲	
⑨	自由曲	
⑩	自由曲	
⑪	自由曲	
⑫	自由曲	

格することと定めている。また、器楽Bでは、Sコースは④、Aコースは⑤、Bコースは⑥までを合格することに加え、弾き歌いの必修曲20曲と3通りの律動を合格していることが単位認定条件となっている。

(2) 分析方法について

本稿では、2021(令和3)年度入学生(2年課程)の1年I期「器楽A」におけるグレード取得状況と意識調査(自信度)を3つのコース別に考察することとする。分析方法としては、まず、各コースの選択者の入学時のピアノのレベルについて取り上げる。次いで、グレードの取得状況、弾き歌い曲、律動の合格状況、さらにI期「器楽A」開始時と修了時の意識調査(自信度)の結果を表に整理し、分析する。意識調査(自信度)については、「ピアノ」「弾き歌い」「律動」の3項目に対してそれぞれ10段階で自己評価してもらったものである。

尚、用いるデータは、I期開始時と修了時の意

識調査を両方とも回答した44名の学生に限定している。

### (3) 分析結果について

#### ① S コース

【Sコース選択者の入学時のピアノレベル】  
ソナチネ以上：4名  
バイエル中盤程度：1名  
分からない(忘れた)：2名

Sコースを選択した学生は7名で、入学時のアンケートから得られたピアノレベルは、右のとおりである。

まず、I期の最初の取得グレードは、⑤1あるいは⑤2のいずれかであった。そして、I期修了時点で、最も多くグレードが進んだのは(b)と(e)の学生で、6段階進んでいた。一方、(c)の学生のように、⑤1で修了している学生もいた。全体のI期修了時の取得グレードは、⑤1～⑤8と幅が開いているが、グレード取得状況を平均すると、Sコース選択者は全体で3段階進んでいることが分かった。また、弾き歌いの平均合格曲数は20曲で、Sコースの弾き歌い用の楽譜<sup>ii</sup>は、本伴奏よりもさらに難易度の高いものを使用しているにもかかわらず、平均すると必修曲20曲分は修了していることが分かった。

次に、自信度についてであるが、I期修了時に

ピアノの自信度が入学時よりも上がったのは7人中2名のみで、3名は下降、残りの2名は変化なしであった。平均値をみても、0.28点下がっており、自信度が下がっていることが明らかである。弾き歌いに対する自信度の平均値は、0.43点上昇、律動に関しては、合格者が3名で、7名全体の自信度の平均値に変化は見られなかった。

ここからは、1年I期「器楽A」修了時の学生の感想記述を一部取り上げながら、自信度の結果に対する理由を探りたい。

まず、ピアノに対する自信度が上がった学生(g)は、I期の目標であったバイエルを修了できたこと、また高校時のピアノ授業では人前で弾くことに抵抗があったが、短大の授業では1対1で丁寧な指導が受けられ、さらにピアノの中間発表を経験して、少しずつ苦手意識がなくなり自信

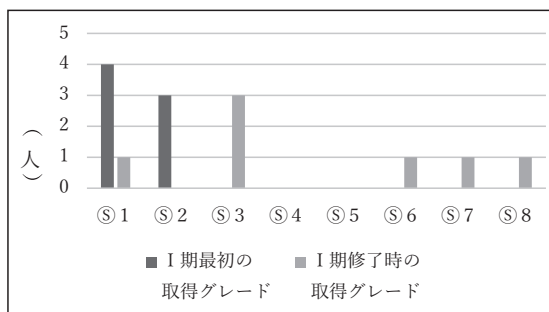


図3 Sコースのグレード取得状況

表6 コースの学生のグレード取得状況とI期開始時と修了時の意識調査結果

学生	最初の取得グレード	I期修了時の取得グレード	弾き歌い合格曲数	律動3種類	I期開始時			I期修了時		
					自信度(10段階評価)意識調査			自信度(10段階評価)意識調査		
					ピアノ	弾き歌い	律動	ピアノ	弾き歌い	律動
(a)	⑤2	⑤3	17	—	6	6	4	7	5	5
(b)	⑤2	⑤8	26	—	9	9	9	8	6	9
(c)	⑤1	⑤1	18	—	8	7	8	8	9	7
(d)	⑤1	⑤3	16	—	8	8	8	7	6	6
(e)	⑤1	⑤7	19	○	8	5	8	6	9	9
(f)	⑤2	⑤6	16	○	8	5	8	8	6	8
(g)	⑤1	⑤3	28	○	6	6	8	7	8	9
平均値	1.43	4.43	20	—	7.57	6.57	7.57	7.29	7.00	7.57

持てるようになったと振り返っている。

一方、6段階もグレードが進んだにも関わらず、ピアノに対する自信度が下がった（e）は、4月よりも自信がなくなった理由として、10年以上ぶりにピアノに触れたので指が動かなくなっていることにショックを受けたことと、曲に対する解釈を学ぶうちに技術面の粗が見え、過去に弾いていた時は表現でごまかしてきたことに気づいたことを挙げている。しかし、弾き歌いや律動に関しては自信が持てたと記し、特にできないと思っていた弾き歌いは、やってみるととても楽しく、子どもたちが周りにいることを想定しながら表現できたと述べ、自信度も4点上昇している。

その他、弾き歌いで2点自信度が下がった（d）は、弾き歌いでは楽譜ばかり見るのではなく、子どもたちがいると思って楽しそうに弾きたいと今後の課題を述べていた。

以上のように、自信度が上がった学生の感想からは、当然ながらピアノの授業を受ける中で、苦手意識を軽減させることができたこと、また楽しさを実感できたこと、自己目標が達成できたことなどが挙げられていた。一方、ピアノ学習歴は十分にあり、さらにグレードが進んだにもかかわらず自信度が下がっていた原因としては、短大でピアノ授業を受けていく中で、幼い頃に弾いていたときには考えなかった新たな課題が見つかったり、保育者として必要なスキルを自覚したりしたことが挙げられており、ピアノ演奏や弾き歌いに対するさらなる向上心が高まった結果であることが分かった。

## ②Aコース

### 【Aコース選択者の入学時のピアノレベル】

- ソナチネ以上：2名
- バイエル終盤程度：3名
- バイエル中盤程度：6名
- ピアノ経験はあるがほとんど初心者のレベル：1名
- 分からない（忘れた）：3名
- 無回答：1名

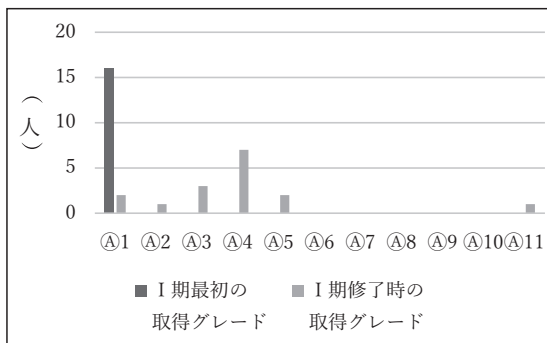


図4 Aコースのグレード取得状況

Aコースを選択した学生は16名で、入学時のアンケートから得られたピアノレベルは、上のとおりである。

まず、I期の最初の取得グレードは、全員A1であった。そして、I期修了時のグレードは、最も多くグレードが進んだのは、学生（f）で11段階進んでいた。A1で修了した学生は2名いたが、グレード取得状況を平均すると、Aコース選択者は全体で2～3段階進んでいることが分かった。また、弾き歌いの平均合格曲数は約17.6曲であった。

次に、自信度についてであるが、I期修了時にピアノの自信度が入学時よりも上昇したのは16人中10名で、4名が下降、残りの2名は変化なしであった。全体の平均値をみても0.62点上がっている。弾き歌いに対する自信度の平均値は1.50点上昇、律動に関しては合格者が5名で、自信度の平均値は0.88点上昇していた。

ここからは、I期修了時の学生の感想記述を取り上げながら、自信度の結果に対する理由を探る。

（g）や（1）は、成長を実感できたことが自信につながったようである。（g）は、ピアノと弾き歌いのいずれも自信度が2点上がっており、感想には「入学時は1曲弾くのに時間がかかっていたけれど、今は早く譜読みができるようになった。指番号に気を付けて弾けるようになってきた」と書かれている。また、（1）は、「弾き歌いの練習を始めてから自分で変わったと感じたことが一つあります。私は暗譜をしてからでないスムーズ

表7 Aコースの学生のグレード取得状況とI期開始と修了時の意識調査結果

学生	最初の 取得グレード	I期修了時の 取得グレード	弾き歌い 合格曲数	律動 3種類	I期開始時			I期修了時		
					自信度(10段階評価) 意識調査			自信度(10段階評価) 意識調査		
					ピアノ	弾き歌い	律動	ピアノ	弾き歌い	律動
(a)	Ⓐ1	Ⓐ3	15	—	5	5	4	7	8	6
(b)	Ⓐ1	Ⓐ4	16	—	8	7	7	7	7	7
(c)	Ⓐ1	Ⓐ4	13	—	6	3	3	5	3	3
(d)	Ⓐ1	Ⓐ1	2	—	5	4	2	4	3	2
(e)	Ⓐ1	Ⓐ1	4	—	4	4	5	4	4	5
(f)	Ⓐ1	Ⓐ11	21	○	5	4	5	6	5	6
(g)	Ⓐ1	Ⓐ4	19	○	4	3	5	6	5	4
(h)	Ⓐ1	Ⓐ4	38	○	6	7	6	7	8	9
(i)	Ⓐ1	Ⓐ4	20	—	5	1	3	7	5	5
(j)	Ⓐ1	Ⓐ2	22	—	7	4	6	8	8	6
(k)	Ⓐ1	Ⓐ5	27	○	5	4	4	6	6	5
(l)	Ⓐ1	Ⓐ3	18	—	3	3	2	5	6	4
(m)	Ⓐ1	Ⓐ4	15	—	5	4	4	5	4	4
(n)	Ⓐ1	Ⓐ5	23	○	5	4	4	6	6	7
(o)	Ⓐ1	Ⓐ3	20	—	7	6	6	8	8	7
(p)	Ⓐ1	Ⓐ4	9	—	7	3	3	6	4	3
平均値	1	3.88	17.63	—	5.44	4.13	4.31	6.06	5.63	5.19

に弾けなかったのですが、弾き歌いで歌詞や指番号を見ながら弾くようになってからは自然と楽譜を見ながら弾けるようになりました」と書かれ、自信度も3点上がっている。

そして、(j)は目標を達成できたことが自信につながったようだ。感想には「目標にもしていたが、できなかった弾き歌いができるようになったことは、とても嬉しかった」と記述し、自信度は4点上がっている。また、(a)も弾き歌いの自信度が3点上がっているが、感想には「1週間でたくさん曲を進めるのはとても大変でしたが、弾き歌いの方を全般に頑張ってくれてよかった」と記述しており、力を入れて練習したことが自信につながっていることも分かった。

また、(h)は律動に関して、「思っていたより上手に弾けた」と述べ、6点から9点へと上がっ

ている。恐らく、「器楽A」の授業を受講するまでは、律動に合ったピアノ曲を演奏した経験がなく難しく捉えていたのであろう。しかし実際は、様々な子どもの歌の伴奏型を変奏するだけで「歩く」「走る」「スキップ」等の音楽に変化できることを知り、自信が持てたと思われる。

一方、自信度が上がらなかった(b)や(d)の感想には、「小学生の時に6年間ピアノを習っていてある程度弾けていたので困ることはなかったが、バイエル終盤になるほどだんだん難しくなり練習量を増やさなければ一回で合格する回数が減ってきてしまった」「音楽が苦手だからとかなり逃げてばかりで、練習からも逃げてしまった。自分の練習不足だと分かる授業だった」と自分の練習不足を反省する記述が見られた。また、(m)は、中間発表で他の学生の発表を聴いて、自分の

実力のなさを実感したことを述べていた。

Aコースを選択した学生は、「ピアノ」「弾き歌い」「律動」ともに、自信度の平均値は上がり、成長を実感できたことや目標を達成できたこと、また十分な練習量などが自信につながっていることが分かった。一方、自信度が上がらなかった要因としては、練習不足や他者のレベルとの差などがあった。

### ③Bコース

【Bコース選択者の入学時のピアノレベル】  
 バイエル中盤程度：6名  
 ピアノ経験はあるが  
 ほとんど初心者レベル：19名  
 分からない(忘れた)：2名  
 無回答：1名

Bコースを選択した学生は28名で、入学時のアンケートから得られたピアノレベルは、上のおりである。大半が、「ピアノ経験はあるがほとんど初心者レベル」である。

まず、I期最初の取得グレードは、①の1名を除いて、②あるいは③である。①から始めた(b)は、①に合格した後、③コースに変更していた。

そして、I期修了時のグレードは、最も多くグレードが進んだ学生(k)と(p)は、②から⑥Aまで進んでいた。グレード取得状況を平均すると、Bコース選択者は全体で2～3段階進んでいることが分かった。また、弾き歌いの平均合格曲数は13.3曲であった。

次に、自信度についてであるが、入学時よりもI期修了時に自信度が上がったのは、28人中「ピアノ」は27名、「弾き歌い」は26名、「律動」は21名であった。初心者に近いレベルのBコースでは、特に「ピアノ」と「弾き歌い」において、ほぼ全員の学生が自信をもてたと実感していたことが分かった。Bコースの「律動」の自信度が低い理由としては、I期中には律動の学修まで至らず、II期に律動の修得を予定している学生が多いことが考えられる。I期開始時と修了時に行った意識

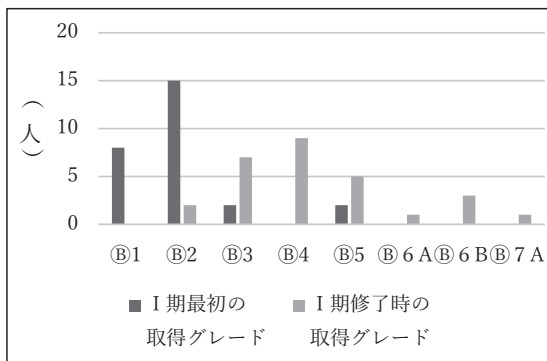


図5 Bコースのグレード取得状況

調査の平均値の差は、「ピアノ」は1.97点、「弾き歌い」は2.57点、「律動」は1.36点で、3分野ともI期修了時に自信度が高くなっている。特に「弾き歌い」の点数差が大きく、自信を持った学生が多いようである。

ここからは、I期修了時の学生の感想記述を取り上げながら、自信度の結果に対する理由を探る。

(h)は、入学時の自信度が3項目とも1点であったが、I期修了時には自信度が上がっている。感想には、「今まで苦手意識があり、練習するのも嫌だったが、授業を受け練習を重ねるうちに、楽しさと面白さとやりがいを感じ、全く弾けなかったのに、少し弾けるようになってとても嬉しかった」と記されていた。また(i)の自信度は、「ピアノ」「弾き歌い」ともに4点上がり、「練習すればするほど弾けるようになったと感じた」と記述していた。両者ともまさに練習することによって楽しさが生まれ、結果として成長も実感できたという例である。他にも複数同様の感想が見られた。

その他、最も多くのグレードに合格した(k)の感想には4月に「器楽B(II期)に入るまでにソナチネに入る」と目標を立てたが、目標達成できなかったことが残念だと記され、合わせてII期の具体的な目標も記されていた。より具体的な目標をもつことも重要であることが分かる。

(f)のみ、「ピアノ」も「弾き歌い」も自信度が1点ずつ下がっているが、感想には小さい頃に習っていたが大学に入ってから曲が難しくなったこ



表8 Bコースの学生のグレード取得状況とI期開始時と修了時の意識調査結果

学生	最初の 取得グレード	I期終了時の 取得グレード	弾き歌い 合格曲数	律動 3種類	I期開始時			I期修了時		
					自信度(10段階評価) 意識調査			自信度(10段階評価) 意識調査		
					ピアノ	弾き歌い	律動	ピアノ	弾き歌い	律動
(a)	Ⓑ3	Ⓑ5	10	—	5	4	4	6	4	4
(b)	Ⓐ1*	Ⓑ4	11	—	5	3	5	6	5	5
(c)	Ⓑ1	Ⓑ2	4	—	1	1	1	2	2	2
(d)	Ⓑ2	Ⓑ5	26	—	3	1	3	7	8	6
(e)	Ⓑ2	Ⓑ5	23	—	3	2	3	5	4	5
(f)	Ⓑ2	Ⓑ3	8	○	6	6	6	5	5	7
(g)	Ⓑ1	Ⓑ4	11	○	3	2	2	5	5	5
(h)	Ⓑ2	Ⓑ4	17	○	1	1	1	2	4	3
(i)	Ⓑ5	Ⓑ6B	20	—	2	2	2	6	6	5
(j)	Ⓑ2	Ⓑ3	4	○	3	3	3	6	4	7
(k)	Ⓑ2	Ⓑ6B	12	—	4	3	1	6	6	3
(l)	Ⓑ5	Ⓑ7A	14	—	2	2	1	5	4	3
(m)	Ⓑ2	Ⓑ3	8	—	3	3	2	5	5	3
(n)	Ⓑ3	Ⓑ3	8	—	4	3	1	5	6	5
(o)	Ⓑ1	Ⓑ5	13	—	1	1	1	3	3	2
(p)	Ⓑ2	Ⓑ6B	20	—	3	2	3	4	5	4
(q)	Ⓑ2	Ⓑ6A	17	—	4	3	5	6	7	5
(r)	Ⓑ1	Ⓑ3	8	—	1	1	1	3	4	2
(s)	Ⓑ2	Ⓑ4	23	○	5	5	3	6	6	5
(t)	Ⓑ2	Ⓑ3	13	—	1	1	1	5	5	4
(u)	Ⓑ1	Ⓑ3	16	—	2	1	1	6	6	3
(v)	Ⓑ2	Ⓑ4	15	—	3	1	3	4	2	1
(w)	Ⓑ1	Ⓑ4	8	○	1	1	1	3	3	3
(x)	Ⓑ2	Ⓑ4	20	—	1	1	1	3	3	1
(y)	Ⓑ1	Ⓑ4	15	—	2	1	1	5	5	2
(z)	Ⓑ2	Ⓑ2	6	—	2	1	1	4	3	1
(aa)	Ⓑ1	Ⓑ4	13	○	5	4	3	6	6	4
(bb)	Ⓑ2	Ⓑ5	8	—	3	2	5	5	7	3
平均値	2.00	4.36	13.25	—	2.82	2.18	2.32	4.79	4.75	3.68

とや今までの指の形を見直し、指を立てて弾くことがまだ慣れないので頑張りたいと書いてあった。

新たな課題が見つかり、その克服がまだ十分に至っていないと感じているようにうかがえた。

表9 各コースのグレード取得状況とI期開始時と修了時の意識調査の平均値

学生	最初の取得グレード	I期終了時の取得グレード	弾き歌い合格曲数	律動3種類	I期開始時			I期修了時		
					自信度(10段階評価)意識調査			自信度(10段階評価)意識調査		
					ピアノ	弾き歌い	律動	ピアノ	弾き歌い	律動
Sコース	1.43	4.43 (+3.00)	20.0	—	7.57	6.57	7.57	7.29 (-0.28)	7.00 (+0.43)	7.57 (+0.00)
Aコース	1.00	3.88 (+2.88)	17.63	—	5.44	4.13	4.31	6.06 (+0.62)	5.63 (+1.50)	5.19 (+0.88)
Bコース	2.00	4.36 (+2.36)	13.25	—	2.82	2.18	2.32	4.79 (+1.97)	4.75 (+2.57)	3.68 (+1.36)

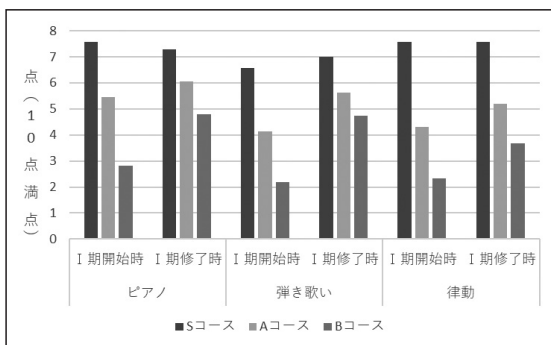


図6 コース間での自信度の比較

④コース間(レベル別)の比較

表9は各コースの平均値を比較したものである。また、図6は、コース間での自信度の比較をグラフ化したものである。まず、取得グレード数及び弾き歌い合格曲数は、Sコース>Aコース>Bコースとなっている。ピアノ学習歴があるほど、グレードや弾き歌いの合格曲数が増えるのは当然の結果といえるであろう。また、10段階評価での自信度も、Sコース>Aコース>Bコースとなっているが、I期開始時と修了時の自信度を比較すると、「ピアノ」「弾き歌い」「律動」ともにBコースの学生が、最も自信度が変化し、自信度が高くなっていることが分かる。3項目ともに、開始時と修了時の差を比較すると、Bコース>Aコース>Sコースとなっている。初心者に近い学生ほど、両手で弾けるようになったり、弾き歌いができるようになったりしたことへの喜び、練習することによって上達していく充実感が大きいであろう。そして、Sコースの「ピアノ」の自信

度のみ、I期開始時より修了時の方が低い。理由は、前述したように幼少期には気づかなかった新たな課題が発見されたことによるものであるが、ピアノ経験者がさらに演奏することへの楽しみや喜び、成長を実感できるような工夫が必要であるともいえる。

(4) グレード取得状況と意識調査結果から得られた今後の課題

本稿では、3つのコース別に2021(令和3)年度I期「器楽A」のグレード取得状況と意識調査(自信度)の結果を中心に考察してきた。まず、3コースともに、半期間で平均2~3段階グレードが上がっていることが確認でき、グレード制の一定の成果が明らかとなった。意欲的な学生は、グレード表に基づきながら目標を立て、6、7段階進め、最も多く進んだ学生は11段階上げることができていた。

一方、自信度に関しては、当然ながら、Bコース(ピアノ初心者)の学生の自信度は、他コースと比較すると低く、特にI期開始時の数値からも不安を抱えていることが読み取れたが、自信度の伸び率は、Bコースの学生が最も大きいことが確認できた。多くの学生の感想にも、苦労はしたが、弾けるようになったときの喜びや楽しさを実感できたことが記され、またより一層練習に励みたい等といった意欲や自己への課題も記述されていた。このことから、BコースにおけるI期の課題は、学生の意欲を掻き立てる内容になっていることが分かった。しかし、AコースやSコースの自

信度の伸び率はBコースよりも低く、さらにはSコースの「ピアノ」はI期開始時より自信度が低くなっていることが明らかになった。ピアノ経験者の意欲がより一層高まるような工夫が必要である。桐岡<sup>iii</sup>らも上級レベルの学生が意欲的に取り組めるようなグレード制への改訂を課題として挙げていたが、同じ状況が本学でも生じていることが確認された。

今後、例えば、コロナ禍以前に行っていた、SコースやAコースのグレード表にある「当日指定」による試験内容や、Sコースの初見視唱、初見演奏、そして伴奏付けなども従来同様の試験形式で実施できる方法を検討する必要があるであろう。また、レベルに関係なく、各自がより具体的な目標をもって練習に取り組めるような工夫も必要不可欠である。例えば、今回の感想記述に見られた、学生自身が成長を実感できた点や新たな課題として自覚できた点などを参考に、保育者として必要な技能及び表現力の獲得を目指せる具体的な目標設定方法を検討していきたい。

#### 4. おわりに

本稿では、入学時から半期間のピアノグレード取得状況と意識調査を分析してきた。今後は、1年間あるいは在学期間中でのピアノレベルや意識の変化を整理していきたい。

2019（平成31）年に新教職課程が導入され、本学でも2022（令和4）年度中に、教職課程の変更が行われることになっている。これまでの教職課程の必修科目であった「器楽A」や「器楽B」も含め、芸術関係科目全体のカリキュラムを編成し直す必要がある。保育者が生き生きと音楽活動を行うためには、ピアノや弾き歌いの技術の修得はもちろんであるが、それらを活かし、子どもたちの表現を引き出していく保育者自身の感性や表現力も欠かせない。「領域及び保育内容の指導法に関する科目」とピアノ等の表現技術を修得するための科目との連携を図りながら、学生たちが自信をもって子どもたちと共に楽しみながら、子どもたちの表現を引き出せる力を育てていきたいものである。

#### 〈引用・参考文献〉

- i 田中敬子「2014年度～2017年度の保育科の音楽教育改革について」『兵庫大学短期大学部研究集録』No.52・53合併号、pp.41-50、2018
- ii S・Aコースの弾き歌い用の使用テキスト  
小林美実『音楽リズム 幼児のうた楽譜集』東京書籍、1986  
A・Bコースの弾き歌い用の使用テキスト  
『やさしく弾けるピアノ伴奏 保育のうた12か月』新星出版社、2011  
※Aコースは任意
- iii 桐岡亜由美 松園洋二「保育養成課程におけるピアノ指導の一考察 ―グレード制導入の試み―」『保育研究』第43号、pp.1-8、2015

